



第 76 回日本癌学会学術総会 イルミナ株式会社 ランチョンセミナー 1

開催日時：2017年9月28日(木) 11:50 ~ 12:40

会 場：パシフィコ横浜 第2会場 3F 301

招待講演

演題：ゲノム解析によって見出された
癌の免疫回避の新たなメカニズムについて

演者：京都大学大学院医学研究科 腫瘍生物学
小川 誠司 先生

座長：イルミナ株式会社 セグメントマーケティング部
オンコロジーセグメントマネージャー
石倉 清秀

(要旨詳細は裏面へ)

■ セミナーの内容に関するお問い合わせ先 contactJPN@illumina.com

〈ご注意〉

本学術総会ランチョンセミナーにご参加いただくには整理券が必要です。

会議センター1階の整理券配布所にて開催日当日午前8時から配布いたします。

※整理券はセミナー開始後に無効になりますのでご注意ください。

ゲノム解析によって見出された 癌の免疫回避の新たなメカニズムについて

京都大学大学院医学研究科 腫瘍生物学

小川 誠司 先生

近年、多くの進行癌症例に対して抗 PD-1 抗体および抗 PD-L1 抗体の顕著な有効性が示されたことから、癌の発症における免疫の役割の重要性があらためて確認されるとともに、がんの免疫療法の展開に大きな期待が寄せられている。一方、現在我が国で発売されている PD-1 抗体であるオプジーボについては、その治療費が年間で 3500 万円にも上ることから大きな社会問題ともなりつつある。

有効な薬剤を患者に届けるという視点からは、多くの問題を解決する必要があるが、現在オプジーボが保険承認されているがん種の多くで、奏成功率は 20 ~ 30% にとどまることから、その効果を治療前に予測することができるマーカーの開発は重要な課題の一つである。今回我々は、*PD-L1* 遺伝子の 3'-UTR の破壊を伴う構造異常を介した、がんの免疫回避のユニークなメカニズムを見いだした。頻度の高いがん種にわたって広く認められるこれらの構造異常に伴って、正常な 3'-UTR が失われる結果、安定化した PD-L1 のトランスクリプトの過剰発現が誘導される。今回の知見は、3'-UTR を介した *PD-L1* 遺伝子発現の新たなメカニズムの解明のみならず、抗 PD-1/PD-L1 抗体の有効性を予測する新たなバイオマーカーの開発に資すると考えられる。